

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年8月2日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活保護制度を改善させよう！

生活保護引き下げの日 「生活保護制度を良くする会」発足

8月1日夕、「生活保護引き下げに抗議する学習決起集会」が開かれました。生活保護利用者をはじめ、弁護士、労働組合、市民団体、福祉、医療、介護関係者、市民など105名が参加しました。

北星学園大学の木下准教授が、生活保護基準の切り下げの問題点と課題について講演。切り下げの内容は、生活扶助費と期末一時扶助の減額、勤労特別控除の廃止で、総額は850億円になると指摘。減額の根拠は、最低生計費との比較ではなく、低所得者との比較、物価が一時的に上がった2008年と比較するなど問題が多く、他の制度にも影響すると批判。生保基準以下で生活している人が多く、国がすべての国民が健康で文化的な最低限度の保障する重要性を強調しました。

生活保護利用者の発言や討論の後、事務局の三浦誠



生活保護を良くする会 共同代表 3人

大橋 晃氏 (北海道社協会長・医師)

木下武徳氏 (北星学園大学 准教授)

肘井博行氏 (SOSネット北海道代表・弁護士)

不服審査請求決意者

503人(8/2現在)

一・道生連会長が、今後の宣伝や不服審査請求などのとりくみを報告しました(不服審査請求は、全道千人をめざし、9月17日と20日、いっせい申請する)。「生活保護制度を良くする会」の結成や役員体制が提案され、参加者の拍手で確認しました。

生活保護利用者が決意表明

フロアーからも深刻な実態相次ぐ



不服申請請求を決意した3人が発言しました。

高橋さん(右写真)は「家賃と光熱費を払うと生活がぎりぎりです。大好きな生寿司もスーパーで眺めるだけです。贅沢をしたいのではありません。いっしょにがんばりましょう」

榎谷さん(中写真)は、難病で介護が必要な子(30代)と夫婦で暮らしています。「室温を下げられません。今冬も大変でしたが、より大変になります。引き下げは反対です」

桑原さん(右写真)は、「冬は朝2時間、夜3時間しか暖房を着けません。食べ物も賞味期限間際の安いものを買っ

て、仏壇の花も安いものを探しています。今でも大変です」

「3歳の息子に赤い長靴しか買えなかった」

フロアーからも、深刻実態が報告されました。

「障害者は生活保護を利用している人が多く、生活が大変になります」と自ら不服審査請求を決意表明する方や、「年金が下がり生保より低くなった。さらに下がると思うのか」、また、生活保護利用者から「就労指導が厳しいので助けてほしい」という発言もありました。

また、以前は生活保護を知らなかったという女性は、「夫の給与が15万で3の子と暮らすのは大変でした。食べ物も十分買えず栄養不足で体も壊しました。衣服は親戚から貰い、風呂もなく、雪が吹き込む家に住んでいました。当時3歳の息子に、店に買える安い長靴は赤しかないことを話す『いいよ』と答えたことを思い出しました」と、生活保護をよくし、知らせ、受けやすくしなければならぬと発言しました。

各地で宣伝行動

北区ダイエー前では11人が請求参加

1日が生活保護支給日の札幌や旭川などで、生活保護引き下げの撤回求めて、宣伝行動が行われました。

札幌市北区のダイエー前の行動では、「引き下げの影響と不服審査請求を勧めるチラシ」を配布し、生活保護利用者からくらしの不安、医労連などから生活保護実態や最低賃金など他の制度にも影響することなどが訴えられました。1時間の行動で8人が不服審査請求に参加、チラシを受け取った3人から電話で申し込みがありました。9月分の支給日にも行います。

